

第35回 うつのみやこども賞だより

平成30年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》 『ソーリ!』
濱野京子／著（くもん出版）



～読んだ本の感想より～

- 女性だって政治家になれるという前向きな行動はあまりできないと思います。私だったら、そんな発想はしないので、そういうところで、照葉はすごいと思いました。
- 主人公の照葉の経験と、自分の経験が重なるところがあったので、照葉の気持ちがよく分かった。
- すごくハラハラドキドキのおもしろい本です。
- 最初はタイトルのソーリ!の意味が分からなかったけど、最後に「なるほど!」と思った。
- 照葉がしたいろいろな経験から、私も誰もが幸せでいられる世界になったらいいなと思った。
- みんなのなりたいものや、「女の子のくせになれる

わけないじゃん」という言葉を言わないクラスが印象にのこりました。

●てるはが、学級委員や、みんなとの活動をとおして、成長していくのがおもしろかったです。

『お母さんの生まれた国』

茂木ちあき／著（新日本出版社）

- たくさんの人の命をこわしていく戦争は、もうぜったいあってはならないことだと感じました。
- 未来のお母さんがしたたいけんのつらさなどがとても伝わってきた。
- 戦争のようすが伝わってきて、もう二度と戦争なんてしてはいけないと思った。
- 戦争のひさんさや、そのえいきょうのぎやくさつがどれほどひどいか知ることができました。
- お母さん達の話や、カンボジア旅行であったことから、内戦の恐ろしさがわかった。今の日本がいかに幸せかもよく分かった。

『四重奏デイズ』

横田明子／著（岩崎書店）

- ピアノのイメージに合わせて弾くという説明が新鮮で楽しかった。
- “ぼくたち”4人の仲がとてもよくていいと思った。
- 音楽の考え方が交差して、最後に一つになる良い話だと思う。
- わたしもピアノをがんばりたいと思った。
- 四人の演奏（四重奏）を通してみんなの思いが木下さんに伝わったところが感動しました。

『妖精のスープ』

高森美由紀／著（あかね書房）

- 春香がカナやキリにいじめられて、かわいそうにおもったけれど、最終的に真とかすみと仲良くなってよかったと思った。
- 春香がおばあさんの家でお手伝いをしたりしていたことが「森のレストラン」でやくに立っていて良かったと思いました。
- 私もおいしそうなスープを食べてみたいです。よみやすぐておもしろかったです。
- 妖精さんのつくったスープで、女の子が、スープをつくりたいという気持ちになったのがすごいと思いました。
- クラスがえをして、なかまはずれになった春香が料理のイベントを通じてカナちゃんキリちゃんと仲良くなれたのがいいと思いました。

平成30年6月3日